一　ドクトルグラハム、ベル君ヲ招待スル「但會費ハ出席者ヨリ支辨スル」

○明治三十一年十一月廿一日午后五時本會事務所ニ於テ臨時常議員會ヲ開キ幹事工學博士辰野金吾君會長席ニ就キ本會ヲ法人組織トナスニ付菊地法學博士ノ起草ニ係ル本會規則改正案ニ就テ議事ヲ開キ第一讀會及第二讀會ヲ結了シ修正ヲ要スル個條ニ就テハ尚起草者ニ交渉スル「トナレリ其出席員左ノ如シ

出席員

幹事　辰野金吾君　常議員　三好晋六郎君　常議員　松尾鶴太郎君
常議員　平井晴二郎君　同　河野鯱雄君　同　的場中君
同　野邊地久記君　同　石黒五十二君　主記　玉木辨太郎君
主計　神田選吉君

○論說及報告

京都疏水々力事業ノ現況及將來（承前）

山田忠三君

第一條　京都市有電動力使用條例

第二條　市制第八十九條ニ依リ電動力ヲ使用セントスルモノハ此條例ニ遵フヘシ

電動力ヲ使用セシムルハ本條例施行ノ際ヨリ十ケ年ヲ以テ一期ト定ム

但滿期後其繼續ヲ望ムモノハ更ニ申出許可ヲ受クヘシ

第三條　電動力ヲ使用セントスルモノハ使用ノ場所使用馬力數及使用時間等ヲ記載シタル書面ヲ以テ京都市水利事務所ヘ申出許可ヲ受クヘシ使用時間馬力數等ヲ變更セントスルトキ亦仝シ

但使用者ノ申出アルトキト雖モ距離又ハ場所ノ都合ニ依リ直チニ求メニ應セサルヿアルヘシ

第四條　電動力使用者ノ使用場ニ達スル電線電柱及布設工費ハ京都市水利事務所之ヲ負擔ス

但工場內部ニ係ル發動器及其他布設工費ハ使用者ニ於テ負擔スヘシ

第五條　電動力使用者ニ於テ用フヘキ發動器ハ使用者ニ於テ器械購求前豫メ京都市水利事務所ニ協議スヘシ

第六條　電動力使用料ハ一日十二時間ノ割ヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ徵收ス尤モ使用時間八時ニ滿タサル時ト雖八時間分ノ使用料ヲ徵收ス

但使用時間一日八時以上十七時未滿ハ時間割ヲ以テシ十七時以上十八時未滿ハ十二時間ノ使用料ニ三割ヲ增シ十八時以上ハ仝ク五割增ノ使用料ヲ徵收ス

一一馬力未滿	一ヶ年	一馬力ニ付　金百　圓
一五馬力未滿	仝	仝　金六拾六圓
一十馬力未滿	仝	仝　金五拾四圓

一三拾馬力未滿　一ケ年　一馬力ニ付　金四拾六圓
一五拾馬力未滿　仝　仝　金四拾壹圓
一百馬力未滿　仝　仝　金三拾七圓
一百馬力以上　仝　仝　金三拾三圓

第七條　使用料ハ發電機若クハ發動機總馬力ト使用時間トニヨリ一ケ年ノ使用料ヲ定ム

但發電機總馬力ニヨリ使用料ヲ定ムルハ八十馬力以上毎日十二時間以上使用スルモノニ限ル

第八條　京都市水利事務所ハ時々吏員ヲ派出シ電動力使用ノ實況ヲ點檢スヘシ若シ使用許可外ノ時間ニ渉リタル片ハ更ニ其使用時間ニ對スル使用料ヲ徵收ス

第九條　使用者ニ於テ六十日以上引續キ電動力ヲ使用セサル片ハ其日數ニ對スル使用料ハ徵收セス

但本條ノ場合ニ於テハ其都度京都市水利事務所ヘ届出ツヘシ

第十條　使用料ハ其年額ヲ四分シ（一月四月七月十月）其月五日限リ京都市水利事務所ヘ納ムヘシ

但納期內新ニ使用スルモノアル片ハ其使用ニ對スル使用料ヲ次期ノ納期ニ於テ納ムヘシ

第十一條　使用料ヲ納期ニ至リ納メサル片ハ京都市水利事務所ハ送電ヲ停止スルヿアルヘシ

第十二條　電動力使用者ニ於テ期限內ニ使用ヲ廢止セントスルトキハ前以テ京都市水利事

務所ヘ届出ッヘシ

第十三條　前條ノ場合ニ於テハ既納ノ使用料ハ返付セス

第十四條　電動力使用人代替リノ片及工場其他賣買讓與シタル片ハ（賣人受人双方連署）京都市水利事務所ヘ届出ッヘシ

第十五條　運河堤防及發電器等修繕ノ爲メ送電セサルコトアルヘシ是レカ爲メ使用者ニ損害アルモ京都市水利事務所ハ其責ニ任セス尤モ送電セサルヿ引續キ四日以上ニ亘ルヿアラハ其ノ日數ニ對スル使用料ハ徵收セス

但運河堤防發電器等修繕ノ片ハ緊急ノ場合ヲ除クノ外施行一週日以前ニ告示スヘシ

第十六條　電動力使用者ニ於テ發動器布設等ノ爲メ京都市水利事務所ノ技師及其他ノ出張ヲ乞フモノハ當所ノ指定ニ從ヒ其費用ヲ支辨スヘシ

第十七條　電動力使用者ニシテ電燈ヲ點火セントスルモノハ本條例ニ遵ヒ京都市水利事務所ノ發電機ニ適合スル點燈式ニ據リ使用申出ルモノニ限リ許可ス

但使用料ハ十六燭光十個ヲ以テ一馬力ト定メ總テ電動力使用料ノ割合ニ據リ徵收ス

京都市有疏水運河使用條例

第一條　市制第八十九條ニ依リ疏水運河ヲ使用セントスルモノハ此條例ニ遵フヘシ

第二條　疏水運河ヲ使用セシムルハ運輸船及遊船ニ限ルモノトス

但蒸氣機關ヲ備ヘタル運輸船及遊船ハ當分ノ内使用ヲ許サス

第三條　疏水運河ヲ使用セントスルモノハ別紙甲書式ニヨリ京都市水利事務所ニ申出許可

ヲ受クヘシ

第四條　前條ニヨリ使用申出アル片ハ其順序ニ從フテ之ヲ許可シ追テ船形積石等檢査ノ上鑑札ヲ交付スヘシ

但都合ニヨリ申出ノ船數ヲ減少セシメ又ハ使用ヲ許可セサルコトアルヘシ

第五條　疏水運河ヲ使用セシムル年期ハ本條例施行ノ際ヨリ運輸船ハ十ケ年遊船ハ五ケ年ヲ以テ一期トス

但滿期ニ至リ尙使用繼續セントスルモノハ期限一ケ月前第三條ノ手續キニヨリ京都市水利事務所ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　運輸船形ハ長サ三十八尺幅六尺(內徑)吃水二尺以內甲乙丙三種トシ豫メ水利事務所ニ備ヘ置ク摸範船ニ據ルヘシ遊船形ハ長サ三十四尺幅五尺五寸(內徑)以內トシ屋形アルモノニ限ル可シ

但遊船ニシテ長サ十五尺幅四尺(內徑)未滿ノモノハ屋形ナキモ使用者ノ便宜ニ任ス

第七條　運輸船ノ積量ハ一艘ニ付五十石ヨリ超過スヘカラス

第八條　運河使用ノ許可ヲ得タルモノハ三ケ月以內ニ造船シ檢査ヲ受クヘシ

但此期限內ニ造船檢査ヲ受ケサルモノハ許可ノ効力ヲ失フモノトス

第九條　運河中定繫場ハ左ノ場所ニ限ル

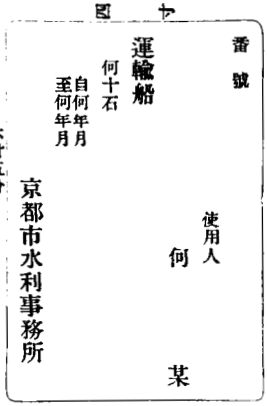
但使用者ニシテ特ニ定繫場ノ許可ヲ得タルモノハ本條ノ限リニ非ス

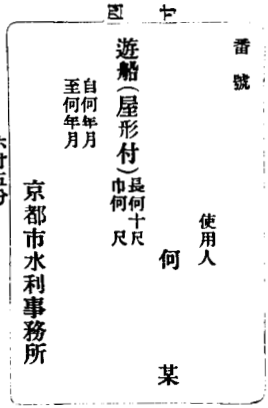
一運輸船

京都第一築地　鴨東船溜　五條船溜
伏見稻荷前船溜　伏見インクライン上船溜
一遊船
京都第二築地　第三隊道東口船溜　藤尾村船溜
蹴上ヶ船溜　廣道橋東西　鴨東船溜
五條船溜　伏見稻荷前船溜　伏見インクライン上船溜

第十條　第四條ニヨリ使用ヲ許可シタルトキ交付スヘキ鑑札左ノ如シ

但鑑札ハ其船尾ノ外部ニ貼付スヘシ





第十一條　運河使用人代替リ又ハ船體ヲ賣買讓與シタルトキハ（賣受人讓受人双方連署）鑑札ノ書替ヲ受クヘシ

第十二條　運河使用ノ許可ヲ受ケタルモノ使用ヲ廢止セントスルトキハ別紙乙書式ニ據リ

京都市水利事務所ヘ届書ト共ニ鑑札ヲ返納スヘシ

但船體ハ三週間以内ニ陸上ケスヘシ

第十三條　運河使用人ハ通船中左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

一　運河ハ上リ一秒時間ニ五尺以上ノ速力ヲ以テ進航スヘカラス

二　航路ハ河ノ中央ヲ取ルヘシ二船以上並航スヘカラス

三　船ノ行キ違フ片ハ都テ其船ノ右ニ避クヘシ

四　後船前航船ニ先立ントスル片ハ其船ノ了諾ヲ得テ乘越スヘシ

五　第一第三隧道ヲ通過又ハ夜航ノ片ハ船首ニ點燈スヘシ

六　堤防及河底ヘ竹木等ヲ挿入スヘカラス

七　川岸堤防等ヘ物貨ヲ堆積シ運河船曳ノ妨ケヲナスヘカラス

第十四條　遊船ニ於テハ物貨ヲ搭載スルヲ許サス

第十五條　運河使用人ハ火藥屍體及尿尿等ヲ搭載スルヲ許サス

但軍用ニ係ルモノハ此限リニアラス

第十六條　使用料ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ徵收ス

一　運輸船

大津京都間上下各一回ニ付

甲船（五十石積）金五拾錢
乙船（三十石積）金三拾錢
丙船（十五石積）金拾錢

但中途荷積荷揚ニ係ルモノト雖モ本文ニ據リ徵收ス

京都伏見間上下各一回ニ付

甲船（五十石積）金四拾錢
乙船（三十石積）金廿四錢
丙船（十五石積）金拾五錢

但前仝樣

一遊船

一ケ年一艘ニ付　金拾五圓　屋形アルモノ

金七圓五拾錢　屋形ナキモノ

一遊船ニ係ル閘門インクライン使用料

閘門一箇所一度一艘ニ付　金五錢　大津井ニ鴨東閘門

金貳錢　鴨川新運河閘門

インクライン一箇所一度一艘ニ付　金貳拾錢　嵐上インクライン

金拾錢　伏見インクライン

第十七條　閘門及インクライン昇降ハ到着ノ順序ニ從フヘシ

但運輸船遊船仝時ニ着シタル片ハ運輸船ヲ先トス

第十八條　閘門インクラインニ於テ運輸船ノ輻湊シタル片ニ限リ京都市水利事務所出張員ハ遊船ノ通過ヲ停止スルヿアルヘシ

第十九條　運輸船ノ使用料ハ其使用切符ヲ以テ發船地（大津、京都、伏見着船地モ亦同シ）ノ水利事務所出張員ヘ差出シ檢閲ヲ受ケ着船地ノ出張員ヘ納付ス

但中途ヨリ歸ルモノアル片ハ發船地ノ出張員ヘ納付スヘシ

第二十條　遊船ノ使用料ハ毎年四月五日限リ京都市水利事務所ヘ納付スヘシ

但年度半ハニ開業スルモノハ船形檢査濟ノ日ヨリ五日以内ニ其年額ヲ納付スヘシ

第二十一條　遊船ヲ以テ疏水運河ヲ使用スルモノニシテ年度半ハニ使用ヲ廢止スルヿアルモ既納ノ使用料ハ返付セス

第二十二條　遊船ニ係ル閘門及インクライン使用切符ハ各閘門及インクライン番所出張員

へ納付スヘシ

第二十三條　第十九條第二十二條ノ使用切符ハ京都市水利事務所ニ於テ購求スヘシ

第二十四條　運河堤防其他修補ノ爲メ通船ヲ停止スルヿアルヘシ最モ是カ爲メ通船營業者ニ損害アルモ京都市水利事務所ハ其責ニ任セス

第二十五條　通船中堤防橋梁等ニ損害ヲ與ヘタルモノアル片ハ京都市水利事務所ハ其修補ヲ爲シ該費用ハ損害ヲ與ヘタル使用者ヨリ辨償セシム

第二十六條　運河ニ關スル規定ニ背キタルモノハ京都市水利事務所ハ運河使用ノ許可ヲ取消スヿアルヘシ

書式　甲

運河使用願

一運輸船　何艘

但何石積　何艘

何石積　何艘

一遊船　何艘

但船形何々（或ハ屋形有無長何十尺巾何尺（內徑））

右運輸船（遊船）ヲ以テ運輸（遊船）營業ノ爲メ疏水運河使用致度候間許可相成度候也

京都市何區何町何番戸住民

年月日　使用人　何某印

京都市水利分掌參事會員某宛

書式　乙

届

一運輸船　何艘

但何石積

一遊船　何艘

但船形何々（或ハ屋形有無）長何十尺巾何尺（內徑）

右運輸船（遊船）ヲ以テ營業ノ爲メ疏水運河ヲ使用仕居候處來ル何月日ヨリ廢止候間鑑札相添及届出候也

京都市何區何町何番戸住民

年　月　日　　使用人　何　某　印

京都市水利分掌參事會員某宛

以上掲クル處ハ現在ノ有樣ナレモ左ノ方法ニヨリテ施工スルトキハ將來此運河ニヨリテ得ル所ノ利益實ニ大ナルヘシ

一疏水運河ノ水量ヲ增加セシムルニ其方法三アリ第一ハ現在ノ大津閘門脇ニ尙一ノ水路ヲ作リ第一隧ハ直東口ニ至ル兩側ノ船曳道ヲ廢シ川巾ヲ取廣ケ第一隧道ハ其儘ニシテ西口ニ大ナル水溜ヲ造リ之ヨリ新ニ一線ヲ作リ蹴上ニ達スルモノトス

一第二ハ第一隧道西口ヨリ新ニ水路ヲ作リ藤尾船溜ヨリ安朱迄貳百五拾間御陵ニ於テ貳百

間第二隧道ニ於テ七拾間ノ隧道ヲ穿チ其他ハ開展水路トナシ大津閘門ニ於テ增水ナシ得ヘキ水量ニ適當ナル運河ヲ造ルモノトス

一第三ハ大津閘門以西蹴上ケニ至ル迄運河ノ兩側ヲセメントモルタルヲ以テ塗抹スルモノトス蹴上ケ以下ニ於ル水路ノ改造ハ第一第二第三何レノ方法ニヨルモ同一ナルカ故ニ爰ニ之ヲ略ス

右第一ノ方法ニヨル片ハ水量一秒時間ニ貳百立方尺以上增加スルモノニシテ其工費金八拾萬圓以上ヲ要シ第二ノ方法ニヨル片ハ水量百五拾立方尺ヲ增加シ工費金六拾萬圓以上ヲ要ス第三ノ方法ニヨル片ハ水量貳百立方尺ニ增加シテ工費金拾九萬八千餘圓ヲ要スルモノトス此外大津閘門ノ川底及隧道ノ川底ヲ堀リ下ケ且川巾ヲ廣ムルトキハ數百立方尺若クハ數千立方尺ノ增水ヲナシ得ヘシト雖モ隨テ莫大ナル費用ヲ要スルヲ以テ爰ニハ其設計ヲ爲サス而シテ右方法ノ內今日之ヲ實行シ得ヘシト認ムルモノハ第三ノモノニ付其目的ニヨリ設計ヲ立ツル事左ノ如シ

一疏水運河大津三保崎橋及北國橋ノ二ケ所ニ第一圖ノ通リ堰止ヲナシ北國橋南詰ニ水揚機械ヲ据付北國橋以北以南ヨリ滲透スル處ノ湧水及堰止ノ漏水ヲ工事中汲揚クルモノトス

一北國橋以西閘門迄閘門以西鹿關橋迄ハ川底厚六寸ノセメントコンクリートニナシ兩側ハ水面迄セメントモルタルヲ以テ塗抹シ閘門ヨリ北國橋ノ間ハセメントモルタルヲ以テ石垣ノ合端ヲ紐漆喰トナスモノトス

一鹿關橋以西第一隧道東口迄ハ兩側ヲ石垣天端迄セメントモルタルヲ以テ塗抹シ川底ハ厚

六寸ノセメントコンクリートニナスモノトス

一第一隧道西口ヨリ藤尾運河山科運河ハ第二圖ノ通リ川巾ノ狹キ處及廣キ處モ全部川底ヲセメントコンクリートニナシ両側ハ船曳道石垣ノ天端迄セメントモルタルヲ以テ塗抹シ第三隧道東口ノ船溜ハ運河ノ川巾ノ三倍ノ廣サニセメントコンクリートニナシ其他ハ現在ノ儘トス

一蹴上ケ船溜ハ第四隧道ノ上部ヨリ西ヘ向ッテ第四圖ノ通リ山林ヲ開鑿シ現在船溜四百四拾八坪ノ殆ト十四倍餘トナリ六千三百坪ノ廣サニナスモノナリ

一堀鑿シタル土砂ヲ放棄スル場所ハ第四隧道北口及インクライン北側水事務所脇其他市ノ所有地ニ棄ツルモノトス

一第四隧道北口ヨリ第六隧道ニ達スル水路改造ノ方法ハ北口ニ於テ川巾七間ニ取廣ケ深三尺トシ此ニ堰板ヲ設ケ水量ヲ加減スルノ用ニ供スルモノニシテ同所ニ六尺ノ段ヲ造リ此段ノ下流ハ從來ノ水路ニシテ木樋及鐵張ノ處ハ煉瓦ニ改造シ第五第六隧道ノ間ニアル分水所ハ第拾圖ノ通リ中央ノ所ヲ放水所及分水所トナシ左右ハ分水口トナスモノナリ

一放水路ハ勾配十分ノ一ノ所ハ切石ヲ以テ両側ヲ造リ勾配六十分ノ一ノ所ハ両側割石垣ヲ以テ積上ケ石垣面ハ中切トナシ其面ヲセメントモルタルヲ以テ塗抹シ川底ハ何レモセメントコンクリートニナスモノトス

一此設計ニヨッテ增水スル所ノ水量ハ鴨川ニ放水シ必要ニ應シ下流ニ於テ使用スルモノトス

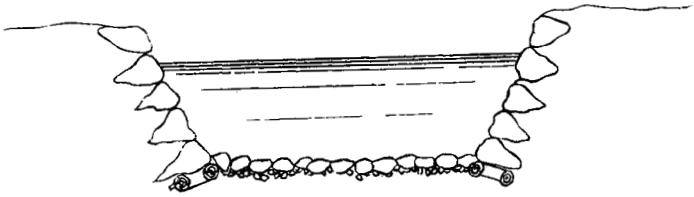
現在ノ運河ニ於テ壹秒時間凡三百立方尺ノ流量ヲ通過セシメタル片ノ斷面

水深五尺七分

流水面積八拾五平方尺九四

壹秒時平均速力三尺四寸八分四厘

壹秒時間流量貳百九拾九立方尺四一



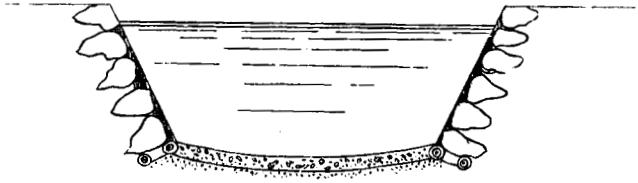
將來ニ於テ得ル所ノ流量壹秒時間ニ付五百三拾九立方尺六斷面

水深五尺五寸

流水面積九拾五平方尺

壹秒時間平均速力五尺六寸八分

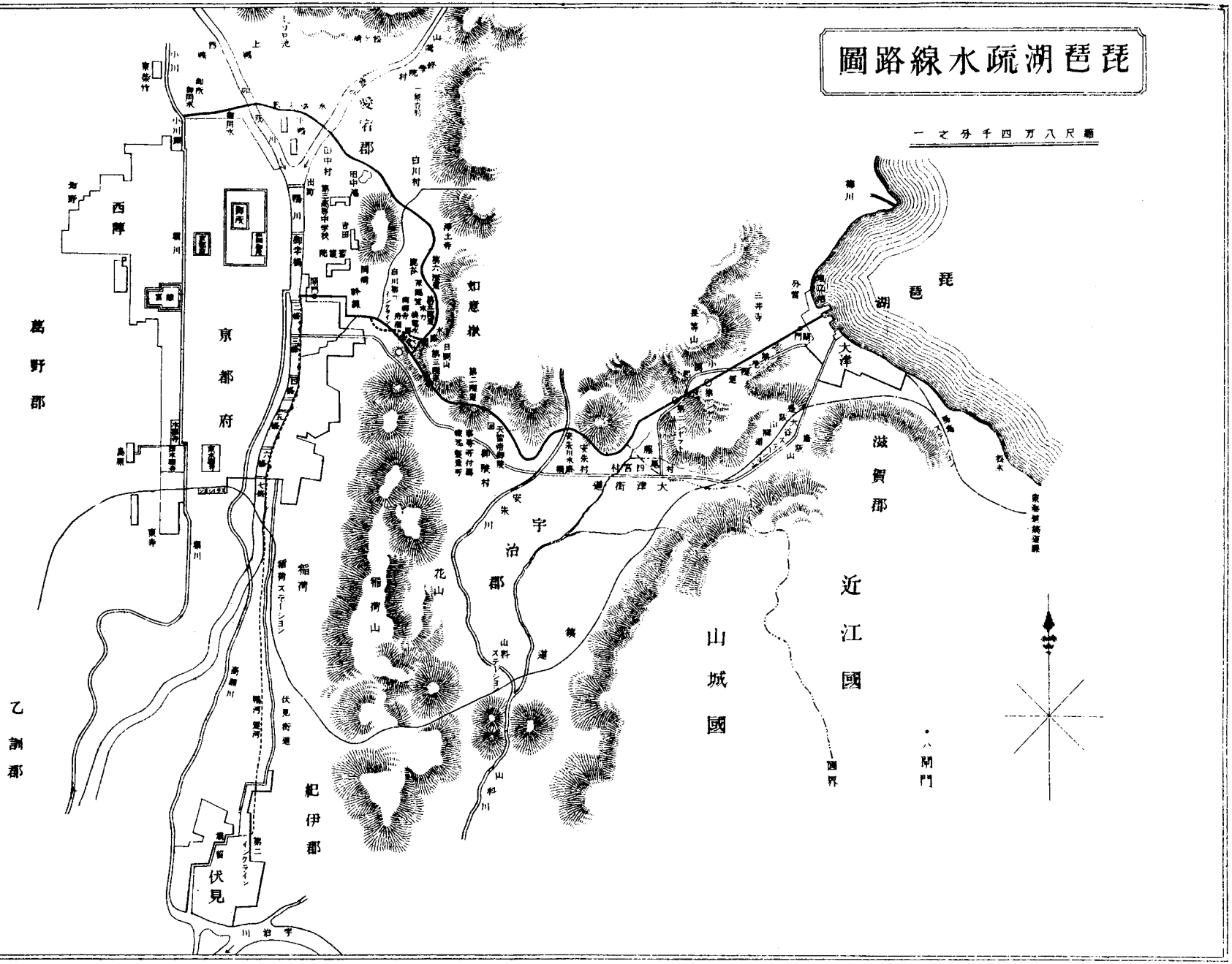
勾配貳千五百分ノ一



一發電所現在ノ有樣ハ前記報告書ノ通リ內徑三呎ノ鐵管四通リニシテペルトン水車貳拾臺カオントシヤフト貳拾ケ所帶皮三拾九筋發電機拾九臺ヨリ成リタルモノナンモ之ヲ全廢

琵琶湖疏水線路圖

縮尺八万四千分之一



シテ五百馬力ノ水車ヲ拾臺據付發電機ハ水車ノ軸ト連結ナシ得ヘキモノヲ使用シ尙鋏管壹通リヲ增設シテ五通リトナシ壹秒時間五百立方尺ノ流量ヲ以テ現在ノ落差百拾八尺ノ處ニ使用スルトキハ工程六千七百十五馬力餘トナル而シテ現在ノ運河ニ最初ノ計畫通リ三百立方尺通水シタルキノ斷面及將來五百立方尺通水スヘキ斷面ハ左記ノ通リニシテ此增水ニ係ル費用及發電所改良ニ係ル費用ハ左ノ如シ

但設計圖ハ畧ス

一金五拾五萬圓

內譯

金壹萬四千四百七拾五圓	大津運河工費
金七萬四千百八拾四圓	山科運河工費
金三萬七千七百三拾圓	蹴上ケ船溜取廣工費
金三萬七千八百貳拾貳圓	第四隧道ヨリ第六隧道迄ノ工費
金壹萬千九百六拾九圓	分水所水溜工費
金壹萬八千三百五拾貳圓	增設鐵管費
金三拾三萬六千九百六拾圓	發電機及水車費
金千五百三拾壹圓	雜費

右ノ費用ヲ以テ改良工事ヲ施行シ得ル處ノ電力五千馬力トナストキハ拾四時間使用セルモノトシテ今日ノ實收壹馬力ニ付壹ケ年平均金四拾四圓拾錢ヲ以テ積算スルキハ壹ケ年ノ收

得貳拾貳萬五百圓ヲ得ルモノナリ而シテ之ヲ現今ノ石炭相場ト前記使用料ヲ定メタルトキノ相場ト比較スルトキハ實ニ三倍以上ノ差アリテ目下壹萬斤ノ石炭ハ當地ニ於テ六拾圓以上ノ相場ナリ然ラハ電力使用料ノ價格ヲ騰ムルモ必然ノ理ナレ𪜈然レ𪜈市條例ノ改正ヲナスニ非ラサレハ此價格ヲ變更スル事能ハス來ル三十四年ハ條例ノ改正期ナルカ故ニ電力使用料ノ改正ヲナスヘキハ必然ナリ然レ𪜈其何レノ價格迄增加セシムヘキ哉豫メ期スヘカラス假ニ一倍（壹萬斤金三拾六圓八拾錢ノ標準）ニ迄價格ヲ騰ムルモノトスレハ實ニ四拾四萬千圓ノ收得アルモノナリ是ハ只發電力ヨリ起ル所ノ收得ノミナレ𪜈發電機ニ使用シタル廢水ハ再ヒ有益ナル水トナリ京都市內ニ入リ鴨河筋ノ運河ニアル閘門九ケ所ニ於テ六拾尺ノ高低アリ之ヲ末流山城國伏見町第二インクラインニ於ル五拾尺ノ高低ト合スルトキハ百拾尺トナリテ殆ント蹴上發電所ト同樣ノモノアルナリ然レ𪜈現今ハ各所ニ於テ水量ヲ使用セルカ故ニ其場所每ニ多少高低ヲ失フモノナレハ此高サヨリ貳割ヲ減シ八拾八尺トナシ此落差ニヨリテ五百立方尺ノ流量ヨリ得ル處ノ水稅ハ（條例ニヨル）八萬八千圓ナリ其他運送船及客船ヨリ得ル處ノ收入貳萬貳千六百圓ヲ合スル𪜈ハ計金三拾三萬千百圓ノ收入ナリ而シテ改良後ハ發電機ノ數モ現在ノ半數トナリ架線費モ減シ給料モ減シ諸雜品費モ減シ殆ント今日ノ半額ノ經常費ヲ以テ足ルモノトス本年度收支豫算ハ左ノ如シ

三十一年度水利事務所ノ歲入出豫算

一金拾壹萬六千五百四拾八圓四拾八錢　歲入豫算高

內譯

金九萬三千九百四拾七圓三拾九錢　電力使用料
金貳萬貳千六百壹圓九錢　水税及運送船其他雜入

歲出

一金五萬五千貳拾四圓七拾壹錢貳厘　歲出經常費豫算高

內譯

金五萬三千貳拾四圓七拾壹錢貳厘　所長以下給料及電氣ニ係ル諸費幷ニ運河修繕費
金貳千圓　豫備費
差引金六萬千五百貳拾參圓七拾六錢八厘　益金
但市公債ノ利子及公債償却ニ充ツ

現在ノ資本金五拾萬圓ニ將來要スル資本金五拾五萬圓ヲ合シ計金百五萬圓トシテ改良後ノ收支計算ヲナストキハ左ノ通リトス

一金百五萬圓也　資本金

收入

金參拾三萬千百圓　改良後ノ收入

支出

金拾壹萬八千貳拾四圓　經常費假ニ本年度ノ通リヲ掲ク

內譯

金五萬五千貳拾四圓

金六萬三千圓　百五万圓ニ對スル利子
市公債ハ年六朱トス

差引　金貳拾壹萬三千七拾六圓　益金

電力使用料現今ノ標準ニヨリテ利益ヲ積算スルトキハ右ノ如クナレモ條例改正後ニ得ル所ノ假定增率貳拾貳萬五百圓ヲ加ルトハ實ニ四拾三萬三千五百七拾六圓トナルモノナリ如シ又發電機ニ於テ拾八時間或ハ二十時間ヲ使用スルトハ尙幾層ノ利益ヲ得ルモノナリ況ヤ改良後ハ千馬力ニテ千百馬力位ニ使用シ得ラルヽニ於テヲヤ呵々如斯利益アル事業ハ他日必ス起ル可キ事業ト確信スルナリ茲ニ水電事業ノ完成報告ヲナスニ際シ京都疏水事業ノ現況ト將來ニ於ル卑見ヲ述ヘ大方諸君ノ教ヲ乞ハントス

（完）

○抜萃

○電力輸送ノ實驗

近刊紐育エレクトリカルレビユウノ所載ニヨレハユーターノオーデン(Ogden, Utah)ニ於テエフ、オー、ブラックウエル氏(F. O. Blackwell)ハ長距離ノ高壓電流輸送ガ營業上如何ナル點ニ迄テ實行シ得可キモノナルヤヲ研究センカ爲メ實驗ヲ行ヒタリ氏ハ此ノ實驗ヲ行ハンガ爲メオーデンノ發電所トソルト、レーキシテーノ配電線トヲ接續シテ長サ七十三哩ニ亙タル一番線三條ヨリ成レル回線ヲ得タリ此長距離線ニ依リテ氏ガ輸送ヲ試ミタル電力ハ一千馬力ニ達シ其電壓ハ實ニ三萬〔ボルト〕ニ上リタルコトアリ而シテ此ノ電